

第16回 会長の時間 ロータリー財団月間に因んで H28.11.24.

11月20日(日曜日)は、ロータリー財団100周年チャリティーグランドゴルフにご参加頂きましてありがとうございました。企画から運営まですべてにご尽力頂きました親睦委員長の芥川さんには、厚くお礼申し上げます。グランドゴルフは、初めてという方が多かったと思いますが、それなりに難しく楽しいひとときを過ごせました。集まった募金は、ロータリー財団に寄付させていただきます。さて、今月は、ロータリー財団月間ですので、ロータリー財団の歴史についてお話ししたいと思います。

ロータリーの文献によりますと、1917年、アーチ C. クランプ RI 会長が、「基金を作り、世界的規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野で何か良い事をしよう」とアトランタ国際大会で提案しました。しかし、彼の熱心さにもかかわらず、寄付はなかなか集まりませんでした。実際、このロータリー基金に最初の寄付があったのは数カ月後で、1917年、米国ミズーリ州カンザスシティ RC から26ドル50セントというささやかな寄付でした。6年経っても基金はやっと700ドルに達したに過ぎなかったそうです。その後、ようやく5,000ドルにまで成長したロータリー基金は、1928年のミネアポリス国際大会で、「ロータリー財団」と命名され、国際ロータリーから独立した機関となりました。

しかし、翌年の1929年に世界大恐慌が発生し、不況の波に遭遇する中、ロータリー財団は初の補助金500ドルを国際障害児協会へ贈りました。この協会は、ロータリアンだったエドガー F. アレンが創設したもので、後に「イースター・シールズ」という米国の慈善団体となりました。実際のところ、この500ドルの寄付金は、ポール・ハリスが匿名で自らが行ったという裏話が残っています。

そして、戦争が終わり、1947年にロータリー創設者のポール・ハリスが亡くなると、「追悼は献花ではなく財団への寄付へ」という彼の遺志がロータリアンに伝えられ、多くの会員から130万ドルの追悼寄付がRIに寄せられました。この寄付は「ポール・ハリス記念基金」となって、その後のロータリー財団の発展に寄与しています。

また、ロータリー財団が初のプログラムを行ったのは、1947年で、「高等教育のためのフェロシップ」を設立し、このプログラムは後に「国際親善奨学金」と呼ばれています。1965年になると新たに「研究グループ交換(GSE)」、「技術研修のための補助金」、「マッチング・グラント」の3つのプログラムが開始されました。1978年には、大規模な人道的取り組みを可能とする「保健・飢餓追放・人間性尊重(3-H)補助金プログラム」を創設し、この3-H補助金のプロジェクト第一号として、フィリピンの600万人の子どもたちにポリオの予防接種

を実施しました。1985年には、「ポリオプラス・プログラム」、1987年には、ロータリー平和フェローシップが創設されました。

さらに、2013年には、「未来の夢計画」として世界中のロータリアンがグローバルなニーズに応えられるよう、新しい補助金モデル（地区補助金、グローバル補助金、パッケージ・グラント）を導入しました。

1917年に僅か26ドル50セントの寄付から始まったロータリー財団は、今や10億ドル以上の寄付を受けるほどの大きな財団に成長しました。ロータリー財団はこうして多くの方々に支えられ、今も人道的分野や教育面での支援活動を続けています。

本日は、100周年を迎えたロータリー財団の歴史についてお話ししました。